

平成28年度羽幌町環境審議会 会議録

- 1 開催日時
平成28年1月10日（火） 午後1時25分～午後2時50分
- 2 開催場所
羽幌町役場2階 幹部会議室
- 3 出席委員及び欠席委員の氏名
(1) 出席委員 忠津 章、蝦名 修、和田 誠、渋谷 弘己、
重原 伸昭、濱野 孝、藤井 智子、岩澤 光子
(2) 欠席委員 なし
- 4 説明のため出席した事務局職員の氏名
町民課 課長 室谷 眞二
町民課環境衛生係 係長 山田 太志
- 5 会議の公開、非公開又は一部公開の別
公開
- 6 会議を非公開又は一部公開とした場合は、その理由
- 7 議題及び議事の要旨
 - 1 会長挨拶
 - 2 議題
 - (1) 羽幌町の環境を守る基本計画の見直しについて
次第に基づき事務局より説明。

【説明の概要】

- ・今年度見直しを進めている「羽幌町の環境を守る基本計画」策定作業の進捗状況、素案を説明。
- ・今月中に素案の町民意見募集手続きを行い、意見提出状況などを踏まえ町民検討会議を開き原案を作成。再度審議会を開催し、委員のみなさんに審議いただきたい。

【質疑応答】

意見：(p19)野生動物の保護のところ 2 行め、ウミガラスとケイマフリの間の読点が抜けている。

事務局：全体を見直している作業の途中であり、他のページでも誤字脱字等があるため、確認のうえ修正する。

意見：同じページで、ここ数十年の間に減少している海鳥としてウミスズメが挙げられているが、ウミスズメの繁殖が確認されているのが数年前であり、表現として正しくないのでは。種として載せるならウミネコにしては。

事務局：もう一度、海鳥センターに確認し対応する。

意見：(p42)住民の取り組みの中で「環境に配慮した生活用品」とあるが、家庭からの排水ということなのであれば生活用品は範囲が広がる。「洗剤」という言葉のほうがよいのでは。最近では「石けん」も環境に負荷をかけるという説もあるので、その言葉は削除してよいのでは。

意見：(p61)「インタープリター」とあるが、過去に育成するための取り組みがあったのか。

意見：過去にはぼろ学講座という事業の中ではぼろ学検定をしてガイドを作ろうとしたが 2 年ほどで立ち消えになった経緯がある。それをインタープリターというものになるのであれば、実績として一部ある。

事務局：観光協会の事業の中で各事業者呼びかけて研修に参加している例があったと聞いている。

意見：正規な言葉ではあるのだろうけど、馴染みはない。

意見：今いるガイドがやっていることにプラスして自然を守る観点で説明してもらうような表現にしたほうがよい。漠然とした表現だとまた何もしないで終わる気がする。

意見：(p67)「山林」という言葉が出てくるが、「森里川海」に統一したほうがよい。

意見：(p71) 森林管理の項目で「適正な植林や伐採を実施することにより土砂流入が減少し～」とあるが、本当に減少しているのか。雨が降ると川の水が汚れることもあるので、現況をもう一度確認してほしい。

意見：(p33)「補助作」という言葉はあるのか。

事務局：前計画でも表記されているが、誤記と思う。言葉の表現も含めて確認する。

意見：(p76) 「遺伝子組換え作物は出来るだけ栽培しないよう～」とあるが、農協としてはこのような取り組みは一切ない。

意見：羽幌ではこのような作物を作らないことを前提に明記すべき。

意見：(p76)「漁獲種」を「魚種」に修正してほしい。

事務局：表現を修正する。

意見：前回の計画の中でシーバードフレンドリーマークを付けた漁具とあるが、どのようなものか。

補足説明：シーバードフレンドリーはあくまでも仮称。マークもまだない。今地域の産業団体の方などと一緒にどのような形でできるか、認証制度としてどう位置付けできるかを検討しているところ。海鳥は環境のバロメーターで、環境が悪化すれば海鳥はいなくなるかもしれないという意味も含め、自分たちの生活を少し変えて環境を良くすることで海鳥を守るのが考え方。この制度を作ることにより例えば同じ商品でも付加価値がつくことで差別化も可能。首都圏では若干料金が高くても売れる傾向にある。そのような方にもっとアピールできないか考えているところで他地域の事例などを参考に検討しているところ。

意見：(p58)環境教育に関する重点施策が掲げているが、前計画と比べてスッキリしてわかりやすい印象になった。

【まとめ】

会長：今後のスケジュールの説明もあったが、次回の審議会ではほぼ確定したものを審議することになるかと思う。今回の素案から大きく変わることはないと思われるが、委員のみなさんも資料を見て何かあれば随時事務局へ連絡してほしい。